

大手芸能事務所による、長年にわたる性加害問題が注目されています。重大な問題ですが、大変デリケートな問題でもあるため、どのように語り、どのように触れたらよいか、戸惑われている方も多いでしょう。実際、多様な視点から考えることができる問題ですが、今回は、性加害・被害について大切なことを知るというところに焦点を当ててみたいと思います。

影響は甚大

性被害の影響は甚大です。フラッシュバックに苦しめられることは比較的知られているかもしれませんが、他にも、恐怖や人間不信、自己不信、拒絶できなかった自責感、汚れた存在になってしまったという罪悪感など、様々なネガティブな感情に苛まれ続けることもあります。被害を連想させる刺激や情報に触れることができず、日常生活が制限されたり、将来の夢が断たれたりします。人生全般に多大な影響を及ぼすのです。

また、性加害事案は加害者との関係が複雑で、逆らえなかったり、世話になったりしていることも多く、自分が被害者だと自覚すること自体が難しいこともめずらしくありません。その場合、被害の影響は説明のつかない無力感や抑うつ感、種々の対人関係における困難などに現われ、自分の性格の問題であると思いついて長年苦しみ続けるということもあります。



カミングアウトも大変なこと

性被害の影響は甚大ですから、被害の補償が行われることが望まれます。しかし、被害者にとって、被害をカミングアウトすることにも大変な勇気が要るのです。性被害は強烈な恥の感情を伴います。自分の人生にそのようなことがあったこと自体、なかったことにしたいと思うのが自然です。カミングアウトするということは、被害の事実をあらためて自分の意識の中心に置くことであり、それ自体が苦痛なのです。

さらに、せっかく勇気を出してカミングアウトしても、世間や社会から軽く扱われたり、侮蔑されたり、加害者の擁護者から攻撃されたりします。今回の事務所の問題でも、被害を訴えた当事者が誹謗中傷に晒されているのを目撃した方も多いでしょう。

ですから、被害者が自ら言える安全な環境を作ることが大切であり、周囲の人が被害の事実を聞き出そうとすることは、二次的な加害行為になりえます。重大でデリケートな問題だと知ることが必要です。

